

科目	心理学実験Ⅱ（心A）	単位数	1
担当教員	多田 美香里、佐伯 恵里奈、林 美恵子、山田 富美雄		
履修対象	心理科学科2年秋学期		
概要と目的	心理学基礎実験実習Ⅰで学んだことを活かし、さらに高度なデータ処理方法を学び、考察を深める。		
達成目標	<p>「知識・技能」</p> <p>(1) 実験の目的に合わせて実験計画を立てることができる。</p> <p>(2) 実験データの収集および処理を適切に行うことができる。</p> <p>(3) 実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成することができる。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」</p> <p>(1) 実験を通して仮説検証について学び、実証的な考え方をできるようになる。</p> <p>(2) 研究報告書の作成を通じて、科学的・客観的な表現ができる。</p> <p>「主体性・多様性・協働性」</p> <p>(1) 実験結果を様々な視点から考察することができる。</p> <p>(2) 心理学の研究例について改善点やより良い検証方法の提案ができる。</p>		
授業計画			
1	ガイダンスと復習課題：受講の注意点の確認、実験およびレポート作成に関する課題を行います。		
2	ストループ課題：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
3	ストループ課題：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
4	社会的促進：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
5	社会的促進：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
6	重量弁別：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
7	重量弁別：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
8	実行機能検査：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
9	実行機能検査：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
10	知覚運動学習：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
11	知覚運動学習：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
12	顔面フィードバック：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
13	顔面フィードバック：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
14	生理データの測定：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
15	生理データの測定：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
授業形態／具体的な内容	①演習／②演習、実験、グループワーク		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は使用せず、教員が用意した教材に基づいて授業をすすめます。			
参考書	心理学実験指導研究会（1985）実験とテスト＝心理学の基礎 培風館 日本心理学会認定心理士資格認定委員会（2015）認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準：実験報告書（レポート）が作成でき、心理学の実験について理解すること。 成績評価の方法：各レポートは、別途配布する評価表の基準によって100点満点で評価します。4つのレポートの平均点を80%、受講態度（実験への貢献度、積極性等）を20%とします。		
留意点	授業中は、実験の実施に適した環境づくりを各自心がけてください。 レポート（実験の報告書）はすべてのテーマで提出し、期限までに提出されない場合は成績評価対象になりません。		
準備学習	この実習で扱うテーマに関する用語を各自調べてノートにまとめてくること（1時間程度）。 実験終了後この実習で扱ったテーマに関する文献を調べてノートにまとめておくこと（1時間程度）。		
備考	テーマ担当教員が採点・添削して返却したレポートは各自で保管し、次のレポート作成に役立ててください。なお、合格点に達しないレポートには再提出を課します。期限までに再提出されない場合、そのテーマのレポートは0点になります。	No.	PY622002